

碧水園能

喜多流公演

能
弱法師 佐々木多門

狂言 棒縛 石岡幸雄

平成27年2月11日(祝・水)開演午後1時30分

(開場午後0時30分)

白石市古典芸能伝承の館

碧水園能楽堂

主催 碧水園能に親しむ会実行委員会
後援 白石市、白石市教育委員会
(公財)白石市文化体育振興財団

白石商工会議所、白石市文化協会

お問い合わせ先 電話 〇二二四一二五一七九四九

住所 富城県白石市南町二丁目二番三号

入場料

正面補助席、脇正面指定席 5,500円
正面補助席 6,000円

脇正面補助席 5,000円

自由席 4,500円
学生席 2,000円
(中学生以下無料 先着10名)

チケット取扱所
碧水園、中央公民館、白石喜多会会員
※平成26年12月5日(金) 午前8時30分発売開始
電話受付 午前9時開始

碧水園、中央公民館、白石喜多会会員
※平成26年12月5日(金) 午前8時30分発売開始
電話受付 午前9時開始

「弱法師 佐々木宗生 所演(三上文規撮影)」

碧水園能

喜多流公演 番組

開演 一・三〇

和泉式部の靈が、縁ある東北院にあらわれ、都の要地の澄み切った景趣を讀えて静寂に舞つ。

仕舞 東北（とうほく）
仏跡を訪ねる為に渡海をしようとする明惠上人を、春日の神慮により押し留める龍神の豪快な舞。

狂言 棒縛（ぼうしばり）

二人の家来が留守番中に酒蔵の酒を盜み飲んでいると知った主人は、太郎冠者を棒に縛って出かけてしまう。それでも酒が飲みたい二人は知恵を絞り、縛られたまま酒を飲むことについに成功する。酔った二人が詫えやと大騒ぎしていると…。

能 弱法師（よろぼし）

河内国の住人・高安通俊（ワキ）は、ある者の讒言をいれて息子を追放してしまったことを悔い、四天王寺において七日間の施行を行つている。盲目ゆえ、その足どりから弱法師（シテ）と呼ばれている青年は、施行を受けようと境内へやつてくる。時節は春。通俊から施しを受け取る袖にも梅の花が散りかかり、芳香が漂うのどかな有様は、そのまま仏への帰依の悦びに通じて、四天王寺を創建された聖徳太子への讃仰のこととなる。

通俊はこの弱法師こそ我が子であると気付き、人目がある為、夜に名乗ることにする。この日はまさに彼岸の中日に当たり、四天王寺の西門・石の鳥居の真中を夕日が通過して沈み、その落日に向かつて折る「日想觀（ひぞうがん）」の時を迎える。極楽の東門へと続くといふ西門・石の鳥居から入り口を押し、弱法師はさらに難波の浦の景観をも、こころの眼で眺めやつて見渡してゆく。しかし盲目の哀しさ、行き違う人々にぶつかり倒れ伏してしまふ。やがて夜となつて、通俊と弱法師の俊徳丸は名乗りを果たし、父兄とともに故郷・高安の里へと帰るのであつた。

和泉流 狂言

棒縛（ぼうしばり）

縛（しばり）

太郎冠者 石田 幸雄

主 内藤 連

次郎冠者 高野 和憲

休憩十五分

二・二〇
二・四〇

シテ・俊徳丸 佐々木 多門

能

弱法師（よろぼし）

ワキ・高安通俊 安田 登

大鼓 原岡 一之
小鼓 住駒 充彦

笛 小野寺 龍一

アイ・供人 高野 和憲

狂言

後見 塩津 哲生
友枝 真也

地謡

佐藤 塩津 圭介
佐藤 寛泰
佐藤 大島 輝久
佐藤 哲生
佐藤 友枝 金子 敬一郎
佐藤 犬野 了人
佐藤 内田 成信

終演予定 三・四五



白石市古典芸能伝承の館 碧水園
〒989-0248 宮城県白石市南町2丁目1番13号
電話・FAX/0224-25-7949